

モニターレポート(2月報告)

【報告内容①】

関東の記録的積雪、厳寒の2月でしたが、ようやく阿賀野川の波が穏やかに、鏡のような水面になり、鴨や鳥が多数泳いでいます。

ござれや橋の下の川底の砂が広範囲に現れ、見えています。今まであまりなかった現象です。意外と水深は浅いのだなと感じました。その他の橋の周辺も砂の島ができています。砂の質も混じりけがなく、きれいに見えます。

〈事務所からのコメント〉

今年の冬は、平野部では雪の降った日が少なく、このような冬は平成18年以来的のことだと思います。山間部では、例年並みの雪が積もっています。

まだ暖かにならないせいか、山の雪がとけていないので、川の水量が少なく、そのため中洲が大きく広がって見えています。

【報告内容②】

今回は母と一緒に河川愛護モニターを行いました。阿賀野川や近辺の話などを聞きながら、じっくりと阿賀野川床固め公園付近を観察しました。

私がか子供の頃、沢海から焼山まで渡し船が出ていました。母に確認したところ、床固め公園から、少し横越方面に歩いた辺りだそうです。土手のバス停からすぐの所です。また、満願寺出張所の側にある公園には、母が沢海小学校の頃に遠足で訪れたことがあるそうです。小さな公園ですが、良く整備されていて心が和みます。モニターをしながら、義務教育の課程で「河川愛護教育」も必要だと考えていました。

〈事務所からのコメント〉

渡し船が出ていたことや、今は見られないかつての光景についてご報告頂きました。またいろいろなお話しがあれば、お聞かせ頂きたいと思います。

阿賀野川河川事務所では、毎年7月1日～7月31日の「河川愛護月間」に、小中学校の総合学習に合わせて出前講座を行っております。この講座は、環境学習や自然体験を通して、川の環境を知ってもらうものです。

※複数のモニター報告を要約してあります。

【報告内容③】

オールを漕ぐボートが盛んです。長い伝統のあるボートは、まさに阿賀野川にふさわしい光景です。阿賀野川の豊かな水流が支えるボートの伝統も治水あればこそです。

〈事務所からのコメント〉

阿賀野川の舟運は、江戸時代に会津藩が西国地方への貴重な通商路として阿賀野川を利用していた頃に始まります。現在は利水ダム(発電用ダム)により舟の往来が出来なくなり、舟運は途絶えてしまいました。

阿賀町に設けられたダムにより出来たダム湖には、新潟県立津川漕艇場があります。第64回新潟国体では、この漕艇場を使用し、ボート競技が開催されました。この漕艇場でボートを練習する姿を見ることが出来るのも、水量豊かな阿賀野川であるからと思います。

【報告内容④】

県公共工事現場見学会について報告いたします。

五泉市で、県が行っている公共工事の「工事現場見学会」が行われた。県新津地域整備部が、後世に残したい施設を見学してもらおうと企画した。

見学地は、佐取地区の阿賀野川河川災害復旧等関連緊急事業の工事現場などの3ヶ所で、市民約30人が参加し、図面や完成模型を使って工事内容の説明を受け、現場見学した。

〈事務所からのコメント〉

阿賀野川河川事務所でも工事現場を見ていただくため、多様な取り組みを行っております。

その1つである松浜に設置した「耐震カフェ」は大盛況を頂きました。

また、工事現場見学会を地元住民、高校生や小学生を対象に行い、「初めて見た。感動した。」という感想を頂いております。

※複数のモニター報告を要約してあります。